



GO!

<https://www.jfaiu.gr.jp>

2022.7.12

No.23-82

EXPRESS

航空連合NEWS

発行：航空連合／発行人：酒井 雄介 〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5 第5総合ビル5階 TEL (03) 5708-7161 FAX (03) 5708-7163

第23期航空安全シンポジウムを開催！

～労組の役割を再認識し、安全意識を一層高めるために～

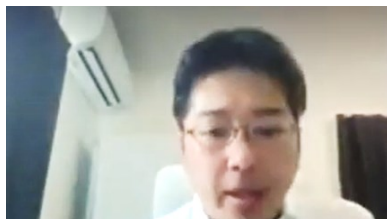
7月7日(木)、全面オンラインで第23期航空安全シンポジウムを開催し、加盟組織組合員、会社関係者、報道関係者など約130名が参加しました。

航空連合から航空安全に関わる取り組みを報告した後、大原記念労働科学研究所の余村様に「**職場の安全課題とその克服に向けて**」、神田お茶の水法律事務所弁護士の上谷様に「**機内における『盗撮』に関わる法的課題と今後の見通し**」について講演頂きました。

参加者からは質問や職場の現状について意見が多くあげられ、コロナ後の需要増加に対応し、安心して働くことができる環境整備について考える契機となりました。（今後発行する航空連合NEWSにて詳報します）



内藤 晃
航空連合会長



余村 朋樹 氏
大原記念労働科学研究所 研究部 部長



上谷 さくら 氏
神田お茶の水法律事務所 弁護士



古藤田 裕
航空連合副会長・航空安全委員長



参加者から活発な質疑がありました



航空連合ビジョン

いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業

2022 年 7 月 7 日
航 空 連 合
会 長 内 藤 晃

労働組合の役割を再認識し、需要回復局面において安全意識を一層高めていく

～航空連合 第 23 期 航空安全シンポジウムの開催にあたって（要旨）～

- ✓ 昨年、コロナによる危機を乗り越え、その先の産業の成長、発展をめざし、航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業」を策定した。
- ✓ 「いつの時代も社会から必要とされる」ために、「働く仲間が誇りをもって働ける」ために最も重要なことは「安全」にはかならない。「安全運航の堅持、安全・安心なサービスの提供は、産業存続と発展の基盤であり、航空安全政策の実現と安全意識の醸成に主体的に取り組む」ことを方針に掲げており、改めて肝に銘じて取り組んでいく。
- ✓ 現在、航空・観光需要が回復しつつあるが、コロナ禍を経て、離職者の増加や採用抑制などの結果、保有する経験や資格なども含めた総合的な観点で人材不足が生じている。加えて、保安検査、給油、グランドハンドリングなど、航空会社からの仕事を受託している企業における人材不足も深刻な課題である。
- ✓ 適切な生産体制の構築にむけて、各労使で十分に協議することに加えて、航空連合として、安全や適切な人員体制の確保にむけた産業政策について関係省庁、経営者に対して積極的に要請をおこなうとともに、労働条件の向上をはじめとする人材の確保・育成・定着につながる「産業で働く魅力の向上」に取り組んでいく。
- ✓ 安全政策の中でも機内での盗撮については、現行の法体系では取り締まることが難しいという課題を抱えており、客室乗務員アンケートの結果をふまえ、職場の仲間が安心して働き、運航の安全を守ることができるよう、政策実現のスピードを加速させていく。
- ✓ 労働組合があるにもかかわらず、残念なことにチェック機能が働かず、メーカーの不正検査や企業の不正会計、不正広告などの不祥事が後を絶たない。労働組合として安全に関する問題を最優先に、職場の抱える問題をタイムリーに、正確に把握したうえで、職場で十分に話し合う、問題を提起できるように行動していく役割が改めて求められている。
- ✓ 4 月 23 日に知床で遊覧船の大変痛ましい事故が発生した。同じ交通・観光に携わる立場として、お亡くなりになった方に心よりご冥福をお祈りするとともに、いまだ行方不明になっている方の一刻も早い発見をお祈りする。
- ✓ 当該の事故について、様々な原因や複合的な背景が報道されているが、コロナ禍で影響を大きく受けた産業であり、航空・観光需要が回復局面にあることなど、私たちが置かれている状況に鑑み、今回の事故を「他山の石」として、労働組合の役割を再認識し、発揮していくことが強く求められている。
- ✓ 長いコロナのトンネルの出口が見え始めている状況において、航空連合ビジョンの実現に向け、本日の航空安全シンポジウムをふまえ、それぞれが明日から日々の仕事に向き合い、産業の存続と発展の基盤である安全を堅持していく。

以上